第３期
「大内まちづくり協議会提言書」

平成３１年３月

大内まちづくり協議会委員

会　長　佐々木　廣　二（大内地域町内会長会連絡協議会会長）

副会長　伊　藤　廣　美（元秋田県立大学教員）

委　員　東海林　建　夫（大内地域町内会長会連絡協議会副会長）

小　野　　勇　（大内地域町内会長会連絡協議会副会長）

佐々木　　勝　（大内地域町内会長会連絡協議会委員）

佐々木　良　行（大内地域町内会長会連絡協議会委員）

加　藤　秀　郎（大内地域町内会長会連絡協議会委員）

佐々木　好　子（大内連合婦人会役員）

堀　川　千穂美（大内農産物直売所ひまわり会）

伊　藤　章　江（大内地区ＰＴＡ連合会役員）

伊　藤　亜希子（大内地区ＰＴＡ連合会役員）

東海林　聖　子（大内地区ＰＴＡ連合会役員）

小　松　　恒　（地域づくり推進事業実践者）

東海林　菊　子（大内芸術文化協会会員）

正　木　健太朗（大内ＤＦ協議会会員）※DF=Dream Farm

伊　藤　　久　（由利本荘市観光協会大内支部理事）

澤　木　静　子（大内地区民生児童委員協議会委員）

東海林　一　郎（公募委員）

木　原　由美子（公募委員）

齋　藤　恵　美（公募委員）

はじめに

大内まちづくり協議会は、「由利本荘市まちづくり協議会条例」第一条の『市民と行政の協働によるまちづくりを推進し、地域の課題解決及び活性化を図る』、という設置目的のため、任期２年（平成29年8月1日付け等）で委嘱された委員により、大内地域の政策的課題や将来的な展望について、振興防災専門部会、産業建設専門部会、福祉教育専門部会を開催し、それぞれ分野別のテーマを設定し、協議・検討を重ねてきました。

本書は、各専門部会の報告を提言書として取りまとめたものです。

【専門部会構成委員】　　（順不同）

・振興防災専門部会

（部会長）小野勇　　（副部会長）小松恒

（委　員）東海林菊子、正木健太朗、齋藤恵美、東海林聖子、佐々木廣二

・産業建設専門部会

（部会長）佐々木良行　　（副部会長）佐々木勝

（委　員）加藤秀郎、伊藤久、佐々木好子、堀川千穂美、伊藤廣美

・福祉教育専門部会

（部会長）東海林建夫　　（副部会長）東海林一郎

（委　員）伊藤章江、伊藤亜希子、澤木静子、木原由美子

【提言取りまとめの経緯】

○平成29年8月22日　平成29年度第1回大内まちづくり協議会

協議会の役割と活動、平成29年度大内地域主要事業を確認

専門部会別検討テーマを協議

○平成30年3月23日　平成29年度第2回大内まちづくり協議会

平成30年度主要事業、北部学校給食センター建設事業の確認

専門部会別検討テーマを協議

○平成30年4月9日　産業建設専門部会視察研修

大内観光ポイント等の視察を実施

○平成30年8月22日　平成30年度第1回大内まちづくり協議会・視察

由利本荘アリーナ、鳥海山木のおもちゃ美術館の研修視察

北部学校給食センター建設事業の確認

専門部会別検討テーマを協議

○平成30年12月10日　平成31年度由利本荘市まちづくり協議会連絡会議

各地域の事業概要の報告と意見交換（会長・副会長出席）（矢島会場）

○平成31年3月12日まで

専門部会別の報告書を作成

○平成31年3月22日　平成30年度第2回大内まちづくり協議会

平成31年度主要事業等の確認

部会長より専門部会別提言内容を報告

提言書について会長・副会長最終確認のうえ提出することを承認

○平成31年3月29日「提言書」最終稿について個別確認の上、市長へ提出

振興防災専門部会 － 提言

１．災害時の避難対応について

平成２９年７月と８月に大内地域で広範囲に水害が発生し、当時の現地対応の経験を踏まえ、自主防災組織と地元消防団、行政の連携体制を確認する目的で「自主避難所開設手順と避難対策」をまとめたが、各町内では道路の水没箇所があり避難経路が分断される、市の指定避難所まで遠距離であるなど、地理的な事情が異なるため、一時避難場所の確保やその後の指定避難所への安全な移動方法の確保など、今後、よりきめ細かで具体的な避難行動計画の策定が必要である。

２．大内地域の公共交通について

羽後交通バス路線が中田代線の廃止で岩谷町までの運行便のみとなったため、地域の大部分をコミュニティバスでカバーしなければならない状況となっている。本来４路線、４台のバスで運行すべきところが、軽井沢線の混乗利用していたスクールバスが専用車両となったため、羽広線に軽井沢線が統合され、３路線、３台のバスでの運行となり、１日往復１便程度しか運行できない町内会もあり、格差が生じている。

交通空白地帯を解消するために種々の手法が提示されているが、今後、ますます少子高齢化が進むことから、スクールバス運行の空き時間を利用し、主にコミュニティバスの運行経路外である交通空白地域への乗り入れについて、まずは現在保有している８台のスクールバスを今後有効利用できないか検討する必要がある。

３．地域の活性化について

近年、町内会等の行事において、子どもや若者の参加が減少し、地域のにぎわいが薄れてきているが、何か新しい行事を企画しそれを存続させていくことは、人材不足などにより個々の負担が大きく困難な場合があるため、既存の同じような行事の統合を推奨するなど、少しでも多くの子どもや若者たちに参加してもらうよう工夫していく必要がある。

産業建設専門部会 － 提言

産業建設専門部会では、「ぽぽろっこを中心とした観光案内」について、話し合いを行った。前年度３月２３日に専門部会協議において、まずは大内に観光ポイントとして何があるか把握することから始めることとした。

このことから４月９日に大内三川のカタクリやかすみ桜､代内太子堂などを視察した。

その上で、部会のテーマを『行きたくなる大内観光案内ツールの取り組み』として、話し合い、次のような意見等がありました。

〔意見・提案〕

・「ぽぽろっこ」にある観光案内看板を見て、もっとそこに行きたくなるような工夫が必要でないか。「ぽぽろっこ」をスタートし、各観光ポイントを巡りたくなるようなきっかけとなるマップ看板等を作成してはどうか。大内地域は観光地と言える目玉商品がないので様々な視点からの観光マップにしたほうが良い。
・おいしい食べ物も取り上げてはどうか。
・歴史的観光ポイントもある。（例）殿様が参勤交代で歩いた旧刈和野街道
・加多喜沼湿原はもっとPRしてはどうか。
・大内三川にカタクリ群生地がある。
・紅葉や絶景ポイントも観光地になるのでは。
・あまりテーマを広げないで、もっと絞ってはどうか。
・交流人口増加を促すパンフレットの作成が必要ではないか。
・まずは大内に観光ポイントとして何があるか把握することから始めよう。

〔まとめ〕

・「ぽぽろっこ」周辺を大内観光の拠点となる中心と位置づけ、

「ぽぽろっこ」に来たら、　そこから観光が始まる、観光に繋がる、魅力ある観光看板やパンフレットの原案作成の取り組みを進めることとする。

そして、「ぽぽろっこ」周辺を拠点とする、住民主導型の観光案内組織づくりを目指すとともに､集落の隠れた地域資源の掘り起こしとその観光ルート化について、行政は、その活動の発足・育成・支援に積極的に取り組むよう提言する。

福祉教育専門部会 － 提言

福祉教育部会では、前回テーマ「健康寿命の増進」と「地域コミュニティの構築」について検証を行い、さらに、「地域コミュニティの構築」に、新たな提言がなされた。

テーマ
【健康寿命の増進】
【地域コミュニティの構築】

テーマの検証
「小中学校の児童、生徒を活用した声かけ運動の実施」
・声かけ運動は、コミュニティスクールでも取り上げられて実践されている。
・小学校と中学校では年齢的な温度差があるにしても、学校の協力により徐々に浸透してきており、挨拶の輪が出来ているのではないか。
「ミニデイサービスを活用し、老人クラブの行事と共催するなど、地域コミュニティの場所を作る」
・ミニデイサービスを行っている町内会は８町内会と増えたものの、さらに活用する町内会が増えてくれれば良いとの声があった。
・老人クラブと子ども会などとの事業共催は、経費を分けなければならないが可能であるとのこと。
・ミニデイサービスに参加した高齢者の評判は良いが、参加しない高齢者を含め交流の輪を広げていくことが今後の課題である。

「地域コミュニティの構築」に付随した新たな提言
【団体コミュニティの再生】
・昭和３０～４０年代は、青年・婦人・壮年など、様々な団体が活発に活動していたが、近年、その団体が縮小、あるいは消滅している。
・人口の減少、仕事の多様化、遠距離通勤、子供の行事、趣味の多様化などいろんな事情が課題として挙げられた。
・コミュニティの再生と地域づくりは、いろいろな年代、いろんな職種、グループ、団体など、さまざまな人達による会を開催するなど、地域の総力で取り組むことが必要になってくる。
・最近、伝統芸能や祭りの伝承・継承の声を聞くことが増えてきた。地域づくり推進事業補助金制度を活用して、地域づくり等に若者や高齢者、そして子ども達の参加を促して､地域の民俗文化を残すために人材の育成を図ることも大事になってくる。

【地域交流人口の増進】
交流人口の増進を図るため、はーとぽーと大内エリア（ぽぽろっこ・ひまわり）、出羽伝承館、ＰＲ館等を一体とした活用を検討して、今まで整備してきた地域資源（ハード・ソフト）を継続的に取り組んで、時代の流れを先取りする方向に対応し、変化していくことが大切である。